

東照宮へ、ロマネスク日光街道⑦1日目 栗橋宿～中田宿～古河宿

日時：2023年6月10日（土） 天候：曇 歩数：29000歩 距離：18.5km

集合：東武日光線南栗橋駅 11時

コース：南栗橋駅（埼玉県久喜市）→大堀公園→会津見送り稲荷→ガスト（昼食）→栗橋宿→焙烙地蔵→浄信寺→深廣寺→栗橋駅前→静御前の墓→栗橋関所跡→栗橋八坂神社→利根川橋→茨城県入り→中田御関所跡→中田宿跡→鶴峯八幡宮→光了寺→中田の松原→古河の一里塚→古河城址→獅子ヶ崎土塁跡～鷹見泉石生誕の地→古河駅→古河セントラルホテル

参加者：熊坂L 奥村SL 勅使河原 高橋文 奈良 渡辺 清水 市村 高橋友 鈴木考 篠 三浦
12人

「東照宮へ、ロマネスク日光街道」7回目は、いよいよ宿泊しての2日間コースです。6回目は2月26日、さいたま市の最低気温が2.4℃、最高気温は10.4℃、北風を受けてのウォーキングでした。季節は春から初夏、そして関東甲信地方は6月8日に梅雨入りをしました。空模様が気なるところですが、どんな街道歩きが待っているのか期待感いっぱい街道歩き大好き会員が集まりました。

1日目は、栗橋宿、中田宿、古河宿と3つの宿巡り、古河一里塚や浄信寺などの寺を訪れました。街道を少し離れた静御前の墓、古河城址などを訪れて歴史を振りかえり、栗橋八坂神社では地元の人との楽しいふれあいもありました。快調なピッチで茨城県入りです。



鶴峯八幡宮鳥居前

南栗橋駅 10時50分～大堀公園～田園風景の広がる道～日光街道

平塚駅7時59分発に乗車、新橋駅で同じホームから出る常磐線に乗り換え、北千住駅で下車して東武鉄道に乗車。草加～新越ヶ谷～春日部と車窓から景色を楽しみ、6回目までに歩いた日光街道を振り返りながら南栗橋駅へ。10時50分、全員揃ったのでスタート。5分ほど歩いて前回クールダウンをした大堀公園へ。ストレッチをして、熊坂リーダーがコース説明。11時10分にスタート、風はなく少し蒸し暑い感じ。稲が植えられた田園風景の広がる道を東へ5分ほど歩き日光街道へ出ました。ここから街道歩きです。



日光街道を北上～東北新幹線高架下～会津見送り稲荷～ガストで昼食

日光街道を北上、タチアオイが高く伸びて淡いピンクの花を咲かせていました。前方に東北新幹線の高架が見えます。その手前、田園風景が広がる一角に庚申供養塔がありました。東北新幹線の高架下を通り栗橋東地域に入ると大分住宅が増えてきました。会津見送り稲荷へ、日光道中絵図には「むかし、会津の人がこの場所で盗賊に遭ったとき、稲荷様のおかげで難をまぬがれたので社を作って名付けた」と書かれています。国道125号に出て左折、時刻は12時少し過ぎ。大手飲食店が数軒並んでいるところの「ガスト」で昼食タイム、私は「やわらかポークかつみぞれ煮定食」を注文、ロボットが運んでくれました。



ガスト～栗橋宿 炮烙地蔵～浄信寺～深廣寺～栗橋駅前～静御前の墓

13時、午後のスタートです。日光街道へ戻り、栗橋宿の南に位置する炮烙地蔵へ、「栗橋の関所を無断で通過した人が火あぶりの刑にされたのを哀れんだ人々が建てた」と伝わっています。宿場の趣が漂う旧家の前を通り、栗橋の開墾に努めたという梅澤太郎右衛門の墓がある浄信寺に立ち寄りしました。隣の深廣寺へ、高さ360cm、幅50cm、「南無阿弥陀仏」と刻まれた六角名号塔が林立、20基が千人供養塔、1基が三千人供養塔。江戸時代に伊豆より大石を船で持ち帰り建立しました。街道を少し外れてJR栗橋駅前を通り、静御前の墓へ。「静御前の亡骸は、侍女の琴柱がこの地にあった高柳寺に埋葬した」と伝わっています。



静御前の墓～栗橋北地域～栗橋八坂神社 狛鯉 鯉と亀に守られた神輿

静御前の墓から再び日光街道へ、栗橋北地域に入りました。アスファルト道の坂道を上って、国の利根川堤防強化事業に伴い2021年に利根川堤防上へ還座した栗橋八坂神社へ。「慶長年間に利根川が氾濫した際、鯉と亀に守られた神輿が漂着したことから社が築かれた」と伝えられています。狛犬ならぬ狛鯉が神殿を守る珍しい神社です。久喜市指定文化財の神輿が格納されている建物をガラス越しに眺めていると、境内で作業をしていた年配男性がシャッターを全開して神輿の由来や造りを説明してくれました。神輿は、台輪の大きさが1.41m、高さが1.97mと大型です。男性が「神輿をかついでこう揺らすんだ」と自慢げに話してくれました。こんなふれあいが楽しい街道歩きです。



利根川橋～14時44分 茨城県入り～房川渡と中田御関所跡 中田宿跡

栗橋八坂神社を出て利根川に架かる利根川橋を渡ります。橋の中ほどに「茨城県古河市」の標識がありました。14時44分に埼玉県久喜市から茨城県入りをして古河市へ、標識の前で記念写真を撮りました。長い橋で渡りきるのに9分かかりました。橋の近くに「房川渡と中田御関所跡」「中田宿跡」の説明板があり、「江戸時代の中田宿は、現在の利根川橋下の河川敷の場所にあった」と書かれていました



鶴峯八幡宮 足踏みで祈願～中田の松原～16時28分 古河第二高校

中田宿跡から5分ほど歩き、養和元年に源頼朝が鶴岡八幡宮から勧請した鶴峯八幡宮へ。「日光街道旅の神」で、社殿の前で足踏みをして祈願すると安全に旅ができると言われています。みなさん、左右左の足踏みを三回繰り返して祈願しました。鳥居前の「中田宿」常夜灯モニュメントを背景に集合写真。隣の光了寺は境内工事中でスルー、時刻は15時15分。一路北上して中田の松原へ、約4kmに渡って立場や茶屋があった美しい松並木は戦時中の燃料不足で伐採され、現在は再建中で寂しいかぎりです。光了寺から足早で1時間近く歩き、コンビニで暑さをしのぐ小休憩。16時28分、まだ門が空いている古河第二高校へ。



古河一里塚～古河宿常夜灯モニュメント～渡良瀬川土手～古河城本丸跡

古河第二高校の南隅に日本橋から16里目の古河一里塚があります。リーダーが事前に訪問連絡を取って、何とか校門が締まる前に着くことができ、校庭に入ることができました。木陰の下は涼しい風が吹いていて、いくぶん暑さがしのげました。どのような経緯で一里塚が校庭内になってしまったのか分かりませんが、記念の写真を1枚。旧街道に出て古河宿常夜灯モニュメントがあるところへ到着、古河駅はもう近くです。日帰り組の3人は、直接古河駅へ。宿泊組は、街道を外れて西へ進み渡良瀬川土手の古河城本丸跡へ。古河城が築かれたのは平安時代で南北に1800m、東西550mもあり、渡良瀬川を脇に控えた川を堀にした巨城でした。しかし渡良瀬川の度重なる氾濫を抑えるために明治末期、大規模な治水工事が実施されて曲輪は削られて堀も埋められ、3階建ての天守など建造物などは完全に廃却されてしまいました。



獅子ヶ埼玉壘跡～鷹見泉石生誕の地～18時18分 古河セントラルホテル

記念碑の隣には、取り壊される前の天守の写真が展示されていました。「どの辺りに天守があったのだろう」と話しながら川上へ歩き、堤を下りました。竹林のところへ、古河城址の獅子ヶ埼玉壘跡です。古河藩の家老で蘭学者だった鷹見泉石生誕の地前を通り、古河中心街へ。古河駅西口駅前広場でクールダウン、古河駅を通過して18時18分に宿泊場所の古河セントラルホテルへ到着。2万9000歩、18.5kmのロマネスク日光街道⑦1日目でした。古河駅前に出て夕飯を兼ねた懇親会へ・・・



(いちむら記)